

様式第2号の1-①【(1)実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の1-②を用いること。

学校名	東北芸術工科大学
設置者名	学校法人東北芸術工科大学

1. 「実務経験のある教員等による授業科目」の数

学部名	学科名	夜間・ 通信 制の 場合	実務経験のある 教員等による 授業科目の単位数				省令 で定 める 基準 単位 数	配 置 困 難
			全学 共通 科目	学部 等 共通 科目	専門 科目	合計		
芸術学部	文化財保存修復 学科	夜・ 通信			14	14	13	
	歴史遺産学科	夜・ 通信			14	14	13	
	美術科	夜・ 通信			13	13	13	
	工芸デザイン学 科	夜・ 通信			14	14	13	
	文芸学科	夜・ 通信			14	14	13	
デザイン工学部	プロダクトデザ イン学科	夜・ 通信			14	14	13	
	建築・環境デザ イン学科	夜・ 通信			14	14	13	
	グラフィックデザ イン学科	夜・ 通信			13	13	13	
	映像学科	夜・ 通信			14	14	13	
	企画構想学科	夜・ 通信			14	14	13	
	コミュニティデザ イン学科	夜・ 通信			14	14	13	
(備考)								

2. 「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

<p>大学ホームページでの公表 http://www.netbus.tuad.ac.jp/kyogakuka_gakushukekka.htm (教育・学修の状況/調査・アンケートの結果>実践的教育の推進体制>■実務経験 豊かな教員が指導する科目一覧(実務家教員と担当科目))</p>

3. 要件を満たすことが困難である学部等

学部等名
(困難である理由)

様式第2号の2-①【(2)-①学外者である理事の複数配置】

※ 国立大学法人・独立行政法人国立高等専門学校機構・公立大学法人・学校法人・準学校法人は、この様式を用いること。これら以外の設置者は、様式第2号の2-②を用いること。

学校名	東北芸術工科大学
設置者名	学校法人東北芸術工科大学

1. 理事（役員）名簿の公表方法

大学ホームページでの公表 https://www.tuad.ac.jp/about/disclosure/public_info_2024/ (1. 教育研究上の基礎的な情報>(5)②役員等名簿)
--

2. 学外者である理事の一覧表

常勤・非常勤の別	前職又は現職	任期	担当する職務内容 や期待する役割
非常勤	旅館取締役社長	2023. 12. 20 ～ 2025. 12. 19	地域連携
非常勤	会社特別顧問	2023. 12. 20 ～ 2025. 12. 19	教育研究連携
(備考) 学外理事7名のうち2名について記載			

様式第2号の3 【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

学校名	東北芸術工科大学
設置者名	学校法人東北芸術工科大学

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

<p>1. 授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画書(シラバス)を作成し、公表していること。</p>	
<p>(授業計画書の作成・公表に係る取組の概要)</p> <p>当該年度に実施する全ての授業科目は、本学様式の授業計画書・シラバスにおいて、授業内容、目標、成績評価他必要な事項を統一的に明示し、履修学生に対して周知している。また科目等履修生及び外部聴講生も閲覧できるように本学ホームページを通じて公表している。</p> <p>9月 次年度学科別開講計画書作成依頼 10月 次年度学科別開講計画書提出締切 11月 学部長ヒアリング 12月 次年度の教育課程編成会議において開講科目審議・決定 1月 シラバス作成要領 メール配信 3月 シラバス入力締切・第三者チェック・修正指示・公開</p>	
授業計画書の公表方法	<p>大学ホームページでの公表 (シラバス検索)</p> <p>https://portal.tuad.ac.jp/uprx/up/pk/pky001/Pky00101.xhtml</p> <p>東北芸術工科大学ネットバス>★シラバスはこちらから閲覧してください>シラバス照会>シラバス検索</p>
<p>2. 学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。</p>	

<p>(授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要)</p> <p>単位認定等については学則に基準を示し、学内専用サイト「学修・学生生活サイト」で教務関連の事項とともに詳細を学生に提示するとともに、オリエンテーションで説明している。</p> <p>また、各授業科目の評価の観点と評価方法については、インターネットによる学修支援ポータルサイト「NETBUS」で公開するシラバスで事前に確認することができ、担当教員が初回の授業で詳細を説明している。</p> <p>GPA と連動する履修登録単位の上限を設けることで適切な学修時間を確保し、登録科目をきちんと履修する勉学姿勢を身に付けさせている。2 年次から 3 年次への進級要件を設定することにより、4 年次終了時の留年率の低下を図っている。</p> <p>授業担当教員に対しては、教務部長名による「成績評価の基準等について（通知）」を教授会で共有するとともに授業学期ごとに通知している。</p> <p>「学修成果の評価(成績)基準の明確化と A,B 評価割合の遵守」、「公開後修正とならないような評価および作業のお願い」として、シラバス記載事項に留意し厳格に評価を行うことはもちろん、評価の公正さや基準に照らした明瞭さを担保し、成績公開後に学生から「成績確認申請」があった場合にも明確に回答できるよう通知している。</p>	
<p>3. 成績評価において、G P A 等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。</p>	
<p>(客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要)</p> <p>GPA 制度導入及び成績評価のポイント化により、総合的かつ客観的に表している。シラバスに各授業の学習目標や目標達成のための授業方法及び計画を提示し、成績評価基準を明示した上で、厳格な成績評価を行っている。</p> <p>[GPA の計算方法]</p> <p>各科目の単位当たりの評価 (GP=グレードポイント) の総合平均を示す。各科目の単位当たりの評価 (GP) は、成績評点を 4 点満点のスケールで点数化したもの (A=4.00、B=3.00、C=2.00、D=1.00、F=0) を、科目の単位数に乗じて算出している。</p> <p>成績評価 A・B・C・D・F の基準を定め、学内専用サイトで教務関連事項とともに周知、大学ポータル等により公表している。</p> <p>学期別・年度通算の卒業要件科目に関する単位取得状況の分布表及び学期別・年度通算の GPA 分布状況等を大学ホームページで公表している。</p>	
<p>客観的な指標の算出方法の公表方法</p>	<p>大学ポータルでの公表</p> <p>https://up-j.shigaku.go.jp/school/category02/0000000081401000.html</p> <p>(本学での学び>学修についての評価>GPA の活用/成績評価の厳格な運用 他)</p>
<p>4. 卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。</p>	

(卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要)

東北芸術工科大学は、「芸術立国」を基本理念とし、本学の各学位プログラムの課程を修め、124 単位の単位取得と必修等の条件を充たしたうえで、教育理念に定める、人と自然を思いやる想像力と社会を変革する創造力を身につけ、困難な課題を克服しようとする強い意志と共に、芸術の力を社会のために用いることのできる人材の育成を目的としている。その実現のために、「4 つの力と 10 の能力要素」を身につけるべき力として、その修得をめざしている。

(1) 本質を見ようとする姿勢、純粋な目「想像力」

幅広い知識、多様な視点、豊かな美意識を持ち、世界に内在する様々な課題を発見し、説明できる。

(2) 想いを形にできる力「創造力」

発想・直感から創り上げたイメージを、具体的に表現し伝えることができる。

(3) 問題提起と解決への強い意志「意志」

[芸術学部] 自立した「個」の確立を目指し、その強い意志と芸術の力によって、社会に向けて新鮮で本質的な価値観を提起できる。

[デザイン工学部] 社会のためにデザインの力を用いる姿勢と強い意志を身につけ、困難な問題に対する解決策を提案できる。

(4) 社会的・職業的自立のための能力・態度「社会性」

職業観、勤労観を培い、社会人としての基礎的資質・能力を形成し、積極的に社会参加できる。

なお、学則第 48 条に卒業について定めており、教授会の議を経て学長が卒業を認定する。

卒業の認定に関する
方針の公表方法

大学ホームページでの公表

<https://www.tuad.ac.jp/about/policy/>

様式第2号の4-①【(4)財務・経営情報の公表(大学・短期大学・高等専門学校)】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の4-②を用いること。

学校名	東北芸術工科大学
設置者名	学校法人東北芸術工科大学

1. 財務諸表等

財務諸表等	公表方法：すべて大学ホームページでの公表
貸借対照表	https://www.tuad.ac.jp/about/disclosure/public_info_2024/ (3. 財務情報 (令和5年度))
収支計算書又は損益計算書	https://www.tuad.ac.jp/about/disclosure/public_info_2024/ (3. 財務情報 (令和5年度))
財産目録	https://www.tuad.ac.jp/about/disclosure/public_info_2024/ (3. 財務情報 (令和5年度))
事業報告書	https://www.tuad.ac.jp/about/disclosure/public_info_2024/ (3. 財務情報 (令和5年度))
監事による監査報告(書)	https://www.tuad.ac.jp/about/disclosure/public_info_2024/ (3. 財務情報 (令和5年度))

2. 事業計画 (任意記載事項)

単年度計画 (名称：)	対象年度：)
公表方法：	
中長期計画 (名称：)	対象年度：)
公表方法：	

3. 教育活動に係る情報

(1) 自己点検・評価の結果

公表方法：大学ホームページでの公表 https://www.tuad.ac.jp/about/disclosure-etc/self-inspection/
--

(2) 認証評価の結果 (任意記載事項)

公表方法：大学ホームページでの公表 https://www.tuad.ac.jp/about/disclosure-etc/jiheer/
--

(3) 学校教育法施行規則第 172 条の 2 第 1 項に掲げる情報の概要

①教育研究上の目的、卒業又は修了の認定に関する方針、教育課程の編成及び実施に関する方針、入学者の受入れに関する方針の概要

学部等名 芸術学部・デザイン工学部
教育研究上の目的 公表方法：大学ホームページでの公表 https://www.tuad.ac.jp/about/policy/
(概要) 人と自然を思いやる「想像力」と、社会を変革する「創造力」を身につけ、未来を生きるための希望を持った人材の育成
卒業又は修了の認定に関する方針 公表方法：大学ホームページでの公表 https://www.tuad.ac.jp/about/policy/
(概要) 東北芸術工科大学は、「芸術立国」を基本理念とし、本学の各学位プログラムの課程を修め、124 単位の単位取得と必修等の条件を充たしたうえで、教育理念に定める、人と自然を思いやる想像力と社会を変革する創造力を身に付け、困難な課題を克服しようとする強い意志と共に、芸術の力を社会のために用いることのできる人材の育成を目的としています。その実現のために、「4 つの力と 10 の能力要素」を身につけるべき力として、その修得をめざします。
教育課程の編成及び実施に関する方針 公表方法：大学ホームページでの公表 https://www.tuad.ac.jp/about/policy/
(概要) (1) 芸術・デザインを学ぶ基礎となる全学共通科目においては、大学理念の理解を目的とした「芸術平和学」をはじめとして、「自然・社会と芸術」、「地域の文脈」において、芸術・デザインを社会に活かすための基本的姿勢について学び、「言語と表現」、「社会リテラシー」においては、社会で共通して求められる汎用能力としての語学、コンピュータ、デジタル表現、情報などに関する基礎力を修得します。 (2) 各学科が開講する特徴的な専門講義は、全学共通専門科目として開放され、自身の専攻領域に関わらず、学部・学科を越えて幅広く学ぶことができます。 (3) 初年次教育は、全学科の学生混成クラスによる「想像力基礎ゼミナール」を開講し、学部学科を越えて、多様な学生が大学で学ぶ意義、目的について考え、共有することで、主体的な学修の実践に入っていける下地を作ります。 (4) 専門教育は、専門的知識と作法の修得等を目的とした講義と実習による基礎課程と、より実践的な PBL 演習を中心とした専門課程によって構成され、特に、専門課程では、各学科の独自性を生かしながら、実社会との関わりを意識させる、地域・産業との連携演習を常態化することで、学生の能動的姿勢と取組を高いレベルで要求する教育を行います。 (5) 進路教育は、クリエイティブな資質を身につけた人材を育成し、世の中に送り出すことで、社会の変革を目指す「芸術立国」を理念とする本学にとっては、極めて重要な教育です。2 年次のキャリア形成論、3 年次のキャリア設計論等の正課授業だけでなく、入学時ガイダンス、初年次教育、年に 2 度行う担当教員との面談、3 年後期からの各種のキャリア支援等まで含めた一体的な意識形成プログラムとして取り組み、本学で学んだ芸術・デザインを、自らの人生と社会のためにどう活かすのかについてきめ細かく指導します。
入学者の受入れに関する方針 公表方法：大学ホームページでの公表 https://www.tuad.ac.jp/about/policy/

(概要)

東北芸術工科大学は、「藝術立国」という理念のもと、“人と自然を思いやる想像力と、社会を変革する創造力を身につけ、自らの意思で未来を切り開くことができる人材の育成”を教育目標としています。芸術学部及びデザイン工学部の入学者選抜では、それぞれの専門領域に即して多面的・総合的に評価するために、入学希望者を募集します。

②教育研究上の基本組織に関すること

公表方法：大学ホームページでの公表

https://www.tuad.ac.jp/about/disclosure/public_info_2024/

(1. 教育研究上の基礎的な情報>(1)①教育研究上の基本組織(学部・学科等名称、組織図))

③教員組織、教員の数並びに各教員が有する学位及び業績に関すること

a. 教員数（本務者）							
学部等の組織の名称	学長・副学長	教授	准教授	講師	助教	助手 その他	計
—	3人	—					3人
芸術学部	—	14人	16人	8人	0人	0人	38人
デザイン工学部	—	24人	13人	7人	0人	0人	44人
教養部（一般教養）	—	9人	2人	3人	0人	0人	14人
附置研究所	—	2人	1人	1人	0人	0人	4人
b. 教員数（兼務者）							
学長・副学長		学長・副学長以外の教員					計
0人		188人					188人
各教員の有する学位及び業績 （教員データベース等）		公表方法：大学ホームページでの公表（教員検索） https://www.tuad.ac.jp/about/search/					
c. FD（ファカルティ・ディベロップメント）の状況（任意記載事項）							

④入学者の数、収容定員及び在学する学生の数、卒業又は修了した者の数並びに進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況に関すること

a. 入学者の数、収容定員、在学する学生の数等								
学部等名	入学定員 (a)	入学者数 (b)	b/a	収容定員 (c)	在学生数 (d)	d/c	編入学 定員	編入学 者数
芸術学部	269人	278人	103.3%	1,076人	1,098人	102.0%	若干名	1人
デザイン工学部	324人	330人	101.9%	1,296人	1,329人	102.5%	若干名	1人
合計	593人	608人	102.5%	2,372人	2,427人	102.3%	若干名	2人
(備考)								

b. 卒業生数・修了者数、進学者数、就職者数				
学部等名	卒業生数・修了者数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
芸術学部	243人 (100%)	28人 (11.5%)	192人 (79.0%)	23人 (9.5%)
デザイン工学部	285人 (100%)	4人 (1.4%)	262人 (91.9%)	19人 (6.7%)
合計	528人 (100%)	32人 (6.1%)	454人 (86.0%)	42人 (8.0%)
(主な進学先・就職先) (任意記載事項)				
(備考)				

c. 修業年限期間内に卒業又は修了する学生の割合、留年者数、中途退学者数（任意記載事項）					
学部等名	入学者数	修業年限期間内 卒業・修了者数	留年者数	中途退学者数	その他
	人 (100%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
	人 (100%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
合計	人 (100%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
(備考)					

⑤授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画に関すること

<p>(概要)</p> <p>当該年度に実施する全ての授業科目は、本学が定める様式の授業計画書・シラバスにおいて、授業内容、目標、成績評価他必要な事項を統一的に明示し、履修学生に対して周知している。また科目等履修生及び外部聴講生も閲覧できるように本学ホームページを通じて公開している。</p> <p>9月 次年度学科別開講計画書作成依頼 10月 次年度学科別開講計画書提出締切 11月 学部長ヒアリング 12月 次年度の教育課程編成会議において開講科目審議・決定 1月 シラバス作成要領 メール配信 3月 シラバス入力締切・第三者チェック・修正指示・公開</p>

⑥学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準に関すること

<p>(概要)</p> <p>単位認定等については学則に基準を示し、学内専用サイト「学修・学生生活サイト」で教務関連の事項とともに詳細を学生に提示するとともに、オリエンテーションで説明している。また、各授業科目の評価の観点と評価方法については、インターネットによる学修支援ポータルサイト「NETBUS」で公開するシラバスで事前に確認することができ、担当教員が初回の授業で詳細を説明している。</p> <p>GPA と連動する履修登録単位の上限を設けることで適切な学修時間を確保し、登録科目をきちんと履修する勉学姿勢を身に付けさせている。2年次から3年次への進級要件を設定することにより、4年次終了時の留年率の低下を図っている。</p> <p>授業担当教員に対しては、教務部長名による「成績評価の基準等について（通知）」を教授会で共有するとともに授業学期ごとに通知している。</p> <p>「学修成果の評価(成績)基準の明確化とA,B評価割合の遵守」、「公開後修正とならないような評価および作業のお願い」として、シラバス記載事項に留意し厳格に評価を行うことはもちろん、評価の公正さや基準に照らした明瞭さを担保し、成績公開後に学生から「成績確認申請」があった場合にも明確に回答できるよう通知している。なお、学則第48条に卒業について定めており、教授会の議を経て学長が卒業・修了を認定する。</p>
--

学部名	学科名	卒業又は修了に必要な となる単位数	G P A制度の採用 (任意記載事項)	履修単位の登録上限 (任意記載事項)
芸術学部	文化財保存修復学 科	124 単位	有	単位
	歴史遺産学科	124 単位	有	単位
	美術科	124 単位	有	単位
	工芸デザイン学科	124 単位	有	単位
	文芸学科	124 単位	有	単位
デザイン工学部	プロダクトデザイ ン学科	124 単位	有	単位
	建築・環境デザイ ン学科	124 単位	有	単位
	グラフィックデザ イン学科	124 単位	有	単位
	映像学科	124 単位	有	単位
	企画構想学科	124 単位	有	単位
	コミュニティデザ イン学科	124 単位	有	単位
G P Aの活用状況 (任意記載事項)		公表方法 :		
学生の学修状況に係る参考情報 (任意記載事項)		公表方法 :		

⑦校地、校舎等の施設及び設備その他の学生の教育研究環境に関すること

公表方法：大学ホームページでの公表 https://www.tuad.ac.jp/about/disclosure/public_info_2024/ (1. 教育研究上の基礎的な情報>(3)校地・校舎等の施設及びその他の学生の教育研究環境、校舎等の耐震化率)
--

⑧授業料、入学金その他の大学等が徴収する費用に関すること

学部名	学科名	授業料 (年間)	入学金	その他	備考 (任意記載事項)
芸術学部	文化財保存修復学 科・美術科・工芸 デザイン学科	1,200,000 円	275,000 円	240,000 円	休学中の在籍料 (年間)
	歴史遺産学科・ 文芸学科	1,135,000 円	275,000 円	227,000 円	休学中の在籍料 (年間)
デザイン 工学部		1,220,000 円	275,000 円	244,000 円	休学中の在籍料 (年間)

⑨大学等が行う学生の修学、進路選択及び心身の健康等に係る支援に関すること

a. 学生の修学に係る支援に関する取組 (概要) 授業及び学修支援は、教学課を中心に教員と協働し、入学前の段階から入学準備プログラムを実行し、入学後もリメディアル教育の充実など、入学前後において切れ目のない学修支援体制を構築している。また授業の運営に当たっては、学科ごとに事務担当職員を配置すると同時に、特に専門科目授業の現場においては、教学課所属の副手と成績優秀な学部生・大学院生から選抜された SA・TA とが協働してきめ細かい授業支援を行っている。

<p>b. 進路選択に係る支援に関する取組</p> <p>(概要)</p> <p>キャリアセンターが、キャリアガイダンスの企画・運営・実施、センター職員の担当学科制による学生のサポートに加え、各学科の会議に出席して教員へ直接働きかけることにより、教員のキャリア教育に対する意識喚起を行っている。また、日常的に学生の進路形成に関する相談と助言を行うとともに、各年次を対象にしたキャリアガイダンスが組織的にきめ細かく実施されている。</p>
<p>c. 学生の心身の健康等に係る支援に関する取組</p> <p>(概要)</p> <p>2023年度より学生サポートセンター（通称SSC）を設置し、学生と教職員の心と身体への健康維持・増進のためのサポートを組織的に対応している。SSCは、健全で、充実した学生生活を支えることを使命とする一方、学生同士が互いに支えあうピアサポートや予防教育など、授業や活動を通して多面的成長を後押しする活動体である。学生生活における悩みや、困りごと、心身の相談、障害学生支援に関する相談等も専任の臨床心理士を配置し、相談を受け付けている。また、健康維持、増進のために看護師も配置し、教職員が連携しながら安心して学生生活を送ることができる環境を整備している。</p> <p>その他、教員によるオフィスアワー・個別面談設定や学科事務担当職員・副手による支援体制の整備、学生食堂の運営、委託保養施設利用の助成、課外活動の支援、スクールバスの運行など、学生生活を安定させるためのさまざまな支援を行っている。</p> <p>加えて、学生生活の福利厚生向上を図るために「学生代表会議」を開催し、教育内容・福利厚生改善を図るために学修生活アンケートを実施している。さらに、大学・保護者・卒業生をつなぐための保護者会・校友会・卒業生後援会を組織し、大学・保護者・卒業生の連携による学生支援を行っている。</p>

⑩教育研究活動等の状況についての情報の公表の方法

<p>公表方法：大学ホームページでの公表</p> <p>https://www.tuad.ac.jp/about/disclosure/public_info_2024/</p>

(別紙)

※ この別紙は、更新確認申請書を提出する場合に提出すること。

※ 以下に掲げる人数を記載すべき全ての欄（合計欄を含む。）について、該当する人数が1人以上10人以下の場合には、当該欄に「-」を記載すること。該当する人数が0人の場合には、「0人」と記載すること。

学校コード (13桁)	F106310101207
学校名 (〇〇大学 等)	東北芸術工科大学
設置者名 (学校法人〇〇学園 等)	学校法人東北芸術工科大学

1. 前年度の授業料等減免対象者及び給付奨学生の数

		前半期	後半期	年間
支援対象者（家計急変による者を除く）		255人	248人	271人
内 訳	第Ⅰ区分	129人	124人	
	第Ⅱ区分	74人	77人	
	第Ⅲ区分	52人	47人	
	第Ⅳ区分	0人	0人	
家計急変による支援対象者（年間）				-
合計（年間）				275人
(備考)				

※ 本表において、第Ⅰ区分、第Ⅱ区分、第Ⅲ区分、第Ⅳ区分とは、それぞれ大学等における修学の支援に関する法律施行令（令和元年政令第49号）第2条第1項第1号、第2号、第3号、第4号に掲げる区分をいう。

※ 備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

2. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の取消しを受けた者及び給付奨学生認定の取消しを受けた者の数

(1) 偽りその他不正の手段により授業料等減免又は学資支給金の支給を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

年間	0人
----	----

(2) 適格認定における学業成績の判定の結果、学業成績が廃止の区分に該当したことにより認定の取消しを受けた者の数

	右以外の大学等		
	年間	前半期	後半期
修業年限で卒業又は修了できないことが確定	-		
修得単位数が標準単位数の5割以下 (単位制によらない専門学校にあっては、履修科目の単位時間数が標準時間数の5割以下)	-		
出席率が5割以下その他学修意欲が著しく低い状況	0人		
「警告」の区分に連続して該当	8人		
計	11人		
(備考)			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

上記の(2)のうち、学業成績が著しく不良であると認められる者であって、当該学業成績が著しく不良であることについて災害、傷病その他やむを得ない事由があると認められず、遑って認定の効力を失った者の数

右以外の大学等		短期大学（修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。） 、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）			
年間	0人	前半期		後半期	

(3) 退学又は停学（期間の定めのないもの又は3月以上の期間のものに限る。）の処分を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

退学	0人
3月以上の停学	0人
年間計	0人
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

3. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の効力の停止を受けた者及び給付奨学生認定の効力の停止を受けた者の数

停学（3月未満の期間のものに限る。）又は訓告の処分を受けたことにより認定の効力の停止を受けた者の数

3月未満の停学	0人
訓告	0人
年間計	0人
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

4. 適格認定における学業成績の判定の結果、警告を受けた者の数

	右以外の大学等 短期大学（修業年限が2年のもの限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）		
	年間	前半期	後半期
修得単位数が標準単位数の6割以下 (単位制によらない専門学校にあっては、履修科目の単位時間数が標準時間数の6割以下)	-		
GPA等が下位4分の1	29人		
出席率が8割以下その他学修意欲が低い状況	0人		
計	30人		
(備考)			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。